



OUIK Newsletter

生物多様性条約第12回締約国会議（CBD・COP12）とOUIKの役割

国連大学サステナビリティ高等研究所
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット
(UNU-IAS OUIK)
所長 渡辺綱男

こんにちは、OUIK 所長の渡辺です。OUIK は 2008 年の設立以来、生物多様性保全という地球規模課題に対し地域からの情報発信と政策提言を行ってきました。

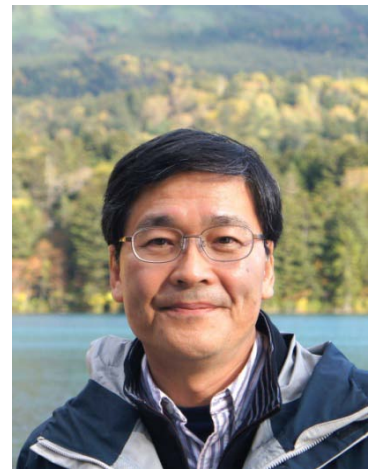
皆様ご存知のように、2010 年に愛知県名古屋市で開催された CBD・COP10 では、生物多様性戦略計画 2011-2020 として愛知目標が合意されました。そして 2012 年のインドのハイデラバード（Hyderabad）での COP11 の議論を経て、今年韓国ピョンチャン（平昌）で開催される COP12 では、この愛知目標の達成の進捗状況を中間評価することが大きな議題の一つとなります。

OUIK にとっても、COP12 はこれまでの成果を広く皆様に報告し、また 生物多様性保全に向けた地球規模での取り組みの中で、OUIK の活動の持つ意味を確認するよい機会と考えています。

まず公式サイドイベントとして韓国国立農業科学院との共催により「伝統的農業システムと生物多様性」を 10 月 7 日（火）に開催いたします。これまで OUIK の「持続可能な農林水産業」研究チームでは、主に石川県能登地方を対象に、伝統的農業システムの保全を目指す世界農業遺産（GIAHS）認定が生物多様性の保全や地域の活性化にどのように貢献しているかを調査分析してきており、その経過報告を行います。

その他「里山・里海」研究チームでは、生態系サービス評価の世界的な潮流も視野に入れ、北陸地方三県を中心とする生物多様性や自然環境、地域社会に関する地理情報データの収集ならびに地図化作業に取り組んでいます。加えて、ユネスコエコパークに登録されている環白山地域を新たな調査研究の重点地域として設定しました。「都市と生物多様性」研究チームでは、金沢市をケースとして都市部における生物多様性と文化多様性の関係を捉え直すコンセプト化をすすめています。

これらの研究経過報告をもとに 石川・金沢の地域に根ざした研究活動をおこなっている皆様と意見交換が出来ればと思っています。さらに、COP12 の場でグローバルな取り組みに対する評価が収斂される中で、OUIK の成果が草の根、地域、政府、グローバルといった様々なレベルでの施索を有機的につなげられるような役割を担えればと思っています。



OUIK の活動目的

1. 持続可能な社会づくりを目指し、地域のパートナーと協働しつつ、国際社会が取り組む研究活動に対し地域レベルの視点から貢献していく。
2. 国際動向に関する最新情報を共有しつつ、普及啓発・人材育成活動を通じ、地域の多様な関係者との対話を進めネットワークを構築していく。

活動報告

里山・里海（SAS）：白山エコパークへの研究協力を開始

SAS研究チームは、石川県加賀地方を含む白山ユネスコエコパークとその周辺地域にて新たに研究活動を行うことになりました。白山ユネスコエコパークは、ユネスコがすすめる「人間と生物圏（MAB）計画」の一事業として実施される「生物圏保存地域（BR）」（※和名通称はエコパーク）¹ に志賀高原、大峰・大台ヶ原、屋久島とともに1980年に日本で初めて登録されました。現在、世界で119カ国631地域（2014年6月現在）が生物圏保存地域としての認定を受けています。

白山は、日本有数の豪雪地帯として知られ豊かな水を下流域にもたらし、白山特有の高山植物が数多く生育するなど地域の生物多様性に貢献しています。また、富士山、立山と並ぶ日本三霊山の一つで、山岳信仰の対象として崇敬され文化的にも重要な役割を担っています。その麓では、かつて焼き畑農業や養蚕などの自然資源を生かした生業が盛んに営まれてきました。周辺にはそうした白山の自然や習俗について理解を深めるための社会教育施設が充実しており、石川県立白山ろく民俗資料館では移築された古民家群と合わせ生活様式や道具類から生業の様子を知ることができます。また石川県白山自然保護センターでは白山の野生動植物の生態やその保全策などを実地で学ぶことができます。一方で、白山麓の里山資源を積極的に利活用する新たな取り組みが白山市木滑地区などで始められており、生態系サービスの現代的な活用事例として注目されます。



白山ろく民俗資料館にて昔ながらのおやつ「カマシリコ」を味わう

白山ユネスコエコパークの認定地域は石川、岐阜、富山、福井と4つの県にまたがり7市村の自治体で構成されており、それら関係自治体とともに、国の機関、関係神社などにより白山ユネスコエコパーク協議会が設立されています。現在、既存のゾーニングとして核心地域、緩衝地域が設定されていますが、協議会では人間活動がより活発に行われる移行地域の設定について検討を進めています。OUIKは2014年8月に協議会の参与として正式に選任されました。OUIKと国連大学サステイナビリティ高等研究所が持つユネスコなどの国際関係機関とのネットワークや連携の経験を活かしつつ、地域の自然資源管理やゾーニング評価について科学的情報共有を図るとともに、関係自治体や地域の方々との協働作業をふまえて白山ユネスコエコパークの国内外の橋渡し役として貢献していきます。

都市と生物多様性（CAB）：研究会の開催

8月12、13日にかけてCAB研究チームは今年度第2回目の研究会を開催しました。今回は研究チームメンバーである石川県内外の大学の先生方以外にも石川県庁、金沢市役所、そして金沢で活動を行っているの方々もお招きしました。一連の研究会の目的は、1) 生物多様性と文化多様性の関係をコンセプト化すること、2) コンセプトを用いて金沢市を事例として分析すること、3) そこから生物多様性と文化多様性が同時、かつ効率的に維持されるような政策提言に結びつけることを目指すものです。チームリーダーの敷田教授（北海道大

¹ ユネスコMAB計画とエコパークについては以下のサイトが参考になります。

<http://www.mext.go.jp/unesco/005/1341691.htm>

学)より、生物多様性と文化多様性は都市部と農村部の関係性として捉え直すことも可能ではないかという議論が展開される中、継続的な生物多様性に関するデータ取得と整備の重要性、生物多様性データとそれらの社会経済へのインパクトの解明が必要、など様々なご意見を頂戴することができました。研究会の結びでは、OUIK 所長の渡辺より金沢市をコアとする都市部と周辺地域の相互的な支えあいの関係性を経済発展と生物多様性保全の視点から捉えなおし、「石川-金沢モデル」としての政策提言を提案したいとの発言がありました。研究会シリーズにおける議論や成果は、2015年5月に金沢市がホストとなるユネスコ創造都市ネットワーク会議年次総会とタイミンを合わせてOUIKが主催するシンポジウムで発表される予定です。



研究会でコンセプト化を進める一方で、CAB チームと金沢市職員有志による勉強会では主に金沢市で伝統文化に携わる方々から聞き取りを行い、それらをデータベースにまとめる実証的な作業を進めています。その一環として著名な九谷焼の陶芸家である利岡光一郎氏を訪ねました。作品を作る行程において、それが石川の自然とどのように関わり影響を受けているのか、その中からどのような知恵と伝統が受け継がれてきたのか、といった興味深いお話を聴くことが出来ました。利岡氏によれば、九谷焼の品質は土によって影響されるといい、それらは金沢市周辺の特定の場所からしか採取できないとのことでした。他にも加賀友禅などの伝統工芸に携わる方々にお話を伺っており、これらは生物多様性と文化多様性に関する事例のデータベースとしてまとめられ、前述のシンポジウムで皆様に発表する予定です。

持続可能な農林水産業 (SPI) : 世界農業遺産 (GIAHS) サイトのモニタリング

SPI 研究チームは世界農業遺産 (GIAHS) に登録されている能登地方の市町において聞き取りやデータ収集の調査を行いました。この調査は GIAHS 登録によって地域にどのような影響があったかを把握するとともに、今後社会経済、生物多様性保全の面からのモニタリングに関し、フレームワークを構築するためのものです。これらの調査結果は、地域の方々に共有され政策、施策に反映される予定です。



田んぼで生き物調査を行う参加者たち

また SPI 研究チームは、能登の農家グループによる技術交流に同行し、新潟県佐渡市を訪問しました。この技術交流は能登と同時に 2011 年に GIAHS に登録された佐渡市との協力事業の一環として催されたもので、「生きものを育む農法」や「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」などの佐渡の先進的な取り組みについて知ることができました。また参加者は市役所での講義に続き、岩首昇竜棚田を訪れたり、田んぼでの生き物調査に参加したりして生物多様性保全の取り組みに触れました。このような交流活動は、能登棚田米、能登米などの認証米のブランド化に取り組んでいる能登の農業従事者の方々にとっても参考に、そして刺激になったのではないのでしょうか。そして農業が生物多様性保全に果たす役割は小さくないという気づきもあったように思います。SPI 研究チームでは今後も、能登の地元の方々と密接に関わりながら調査研究を行いたいと考えています。また能登の里海の活用と保全についても地元の方々と協議を進めており、来年 3 月には「能登の里海」をテーマに公開セミナーを開催することを予定しています。

OUIK 白山登山 (2014.8. 23-24)

OUIK が白山ユネスコエコパーク協議会に参加として正式に参画することもあり、白山登山を行いました。ユネスコ MAB プログラムのエコパーク認定を受けている白山は、豊かな自然と生物多様性に恵まれ、麓やその下流域一帯に多くの恵みをもたらし、古くから信仰の対象となってきた山でもあります。今回の登山で OUIK スタッフは自然と文化の両面から白山の豊かさと大切さを実感しました。



Sub-Global Assessment Network (サブグローバル評価ネットワーク) 研究員がフィリピンより来日 (2014.8.26)



Ms. Mawen Inzon (中央) と彼女のメンターである中村金沢大学特任教授 (左から 2 人目)

フィリピン大学ロスバフィオス校から Ms. Mawen Inzon が OUIK を訪問しました。Ms. Inzon はサブグローバル評価ネットワークメンター・メンティー制度を利用して来日し、日本の里山・里海評価 (JSSA: Japan Satoyama Satoumi Assessment) の手法をフィリピンに応用するための研究に取り組んでいます。彼女の研究対象であるボンドック半島マラナイ村の事例紹介を中心に活発な研究議論が行われました。

白米千枚田収穫イベントに参加 (2014.9.21)

オーナー制度を利用して 5 月に田植えを行った白米千枚田も、いよいよ収穫の時期となり、今年最後のイベントとなる稲刈りに参加させていただきました。黄金に輝く稲穂に覆われた千枚田は絶景です。稲穂を丁寧に手作業で刈り取り、天日干しの棚「ハザ」にかけて作業は終了。その後沢山の参加者と一緒に頬張ったおにぎりの味は格別でした。



スタッフ紹介 イヴォーン・ユー (Evonne Yiu)



シンガポール出身。13 年前に沖縄県費留学生として初来日し、その後シンガポール政府国家公務員を経て今年で来日通算 9 年目を迎えます。2011 年の夏に OUIK のインターンを経験した縁で、2012 年秋、東京大学公共政策大学院卒業後に国連大学に入所しました。現在は OUIK の「持続可能な農林水産業 (SPI)」研究プロジェクトの担当研究者として、地域住民と自治体の温かいご協力を頂きながら、能登の世界農業遺産 (GIAHS) の保全と能登の里山里海資源の持続的な利用について研究と保全活動に取り組んでいます。趣味は旅行、絵を描くこと、ダイビングとグルメです。石川県の素晴らしい文化と自然、皆さんの身近にある日常的な習慣を、たくさん教えて頂ければ嬉しいです！

発行：2014 年 9 月 30 日

国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット (UNU-IAS OUIK)
〒920-0962 石川県金沢市広坂 2-1-1 石川県政記念しいのき迎賓館 3 階

Tel:076-224-2266 Fax:076-224-2271

Email: unu-iasouik@unu.edu

http://ias.unu.edu